

第 353 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和元年 7 月 2 日 (火) 11:00～12:45
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] K-mix F000 NIGHT ピンソバ
[放送日時] 令和元年 5 月 29 日(水)11:30～14:55
[出演者] バカボン鬼塚 川崎玲奈
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信
委員 山本りさ 委員 加藤裕治
[会社] 代表取締役会長 祐嶋繁一
代表取締役社長 今井学
編成制作本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部制作担当部長 寺田和史
5. 事務局報告
 - 新社長挨拶
 - ラジコのデータ分析の件
6. 番組審議 [対象番組] K-mix F000 NIGHT ピンソバ
[放送日時] 令和元年 5 月 29 日(水)11:30～14:55
[出演者] バカボン鬼塚 玲奈
[番組内容] 大ベテランバカボン鬼塚と組むのは、4 月入社の新入
川崎玲奈。リニューアルのピンソバです！

[聴取・合評での主な意見]

山本委員

川崎は想像より落ち着いた声で聴き易い。原稿読みの時は一段トーンが高まるのも良い。鬼塚はとにかく進行が上手。情景描写がうまい。お風呂コーナーの時、川崎が急につかえだしたのが気になった。やや不思議キャラクターだが、うまくいけばリスナーに嫌われない存在になれるのでは？時報前の締めコメは、正直よく分からなかった。

加藤委員

川崎は声質が良く、夜向けだと感じる。言い淀みが散見されるが、新人ならでは。これからの課題だろう。鬼塚の推進力で番組を進行する中で川崎がどう絡んでいくかが課題。「ブラタモリ」のアナウンサーのように、どこかでツボに入れば爆発するのではないかと川崎は、まだ何かを自分で押しとどめているように感じる。とても現代の若者的だ。サウンドスケープのコーナーは理由が単調で、構成が弱い。ここを工夫すれば、彼女の個性が出てくるだろう。全体的に前任時代よりも番組が落ち着き、時代的にマッチしている気もする。鬼塚の高笑いの頻度も減って良い傾向だ。川崎の落ち着きをどう活かすか？鬼塚色に染まりすぎない方が良く感じる。同調性が増せば、コアリスナー化していく。しかし全体的には、鬼塚の苦勞がみてとれる。

木宮委員長

川崎は、本人のキャラかもしれないが会話の声が小さく聞き取りにくい。またメッセージ読みがたどたどしく、アナウンス技術が不足している。現在の立ち位置はパーソナリティというよりは番組マスコットの的な感じではないか。これまでのパーソナリティのキャラクターとは異なる魅力を持っている可能性は感じるの、他の番組を含めどのようなパーソナリティに成長していくべきか、適性を見定める必要があると思われる。鬼塚については、実績があるだけでなく、リスナーの大半が彼目当てであろうことを考えると好きなように話してもらおう今のようなスタイルでよいかと思う。前任時よりも鬼塚氏の話す割合が増えているが、本人が負担でなければよいと思われる。川崎は鬼塚氏に同調することが多く、クロストークが成り立たない点がやや物足りないのではないかと。鬼塚氏が川崎に気を使っているのではないかとと思われる様子が見て取れるので、彼女の役割を明確にして対等な関係性が作れるとよいと思う。「ブレス浜松」コーナーでゲスト2名との事前打ち合わせが不足しているのではないかと感じられた。そもそもこのコーナー自体の目的を明確にしていく必要があるのではないかと。

会社サイド

前回(第352回)では新井の人間性を評価頂いた一方、番組の方向性などについてご指摘頂きました。今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 令和元年9月3日(火) 11:00~13:00を予定

以上

番組審議会委員長

木宮敬信